

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3.672E+09	
法人名	社会福祉法人 高越会	
事業所名	グループホーム 上板	
所在地	徳島県板野郡上板町神宅字堂床27	
自己評価作成日	令和2年1月17日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階
訪問調査日	令和2年2月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然と静かな環境の中で、利用者は穏やかに日々過ごされている。窓の外には、職員が植えた季節の花が一年中咲いている。施設は上板町の高台に建てており、とても景色が良いし季節感も感じられる。建物は木材が主で木のぬくもりがあり南向きで日当たりも良い。利用者と職員の関係は、家族的であり日々楽しく生活もできている。毎月外出行事を行う事により地域社会の交流も多い。実際の家庭での生活のように、空気がゆっくり流れている。利用者は、生活全てに対して選択権があり決して強制的ではない。行動に対しても否定的ではなく肯定、尊重するようスタッフが配慮している

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、民家や田畑が広がる静かな環境のなかに位置している。事業所は、地域との関わりを大切に捉え、中学生の職場体験やボランティアの来訪を受け入れている。同一法人の運営する協力医療機関の定期的な往診や緊急時の協力体制もあり、利用者や家族の安心に繋がっている。職員は、利用者のできることを捉え、さりげない支援に努めている。職員間の関係を良好に保ち、何かあれば、そのつど支援に関する話しあいを行うなど、職員間で方針を共有し、支援に取り組んでいる。事業所の大きな窓からは、住み慣れた地域の山々や田畑の風景を眺めることができ、日中、利用者が自然と集まる場所となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、朝礼時に唱和することもあり、認識を深めている。何か検討する項目が発生すれば施設の理念に照らし合わせて方向性を検討している。	事業所では、開設当初からの理念を、支援の原点として大切にしている。職員間で、地域密着型サービスの意義や事業所の果たす役割について話しあい、理念にそった具体的な支援につながるよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	中学生職場体験の受け入れ、近隣への外出レクリエーション、ボランティアグループが来所して頂いての、剣舞、阿波踊り、手品、フラダンスなどで利用者の方と交流して頂き、地域との交流を図っている。	事業所では、近隣の公園等に出かけるなどして、利用者や地域の方がふれあう機会を設けている。近隣の方やボランティアグループの来訪もある。中学生の職場体験の受け入れ等も、利用者の楽しみとなっている。地域の方から認知症の相談を受ける体制を整えるなど、地域の福祉拠点として取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の相談所としての機能を果たすため。家族、近隣、行政に啓発を行っている。これからも広く理解を深めてもらうよう努力していく。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を実施している。行政も協力的であり参加して頂いている。第三者からの率直な意見を聞きくことには施設運営に良い刺激となっている。意見をケアサービス改善に取り入れることもある。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議には、利用者家族や町担当者、地域包括支援センター職員の出席を得ている。会議は、出席者に事業所の様子や取り組み、考え方を伝える場となっている。出席者からの意見や助言は、サービスの質の共有に活かしている。管理者は、地域の方に出席してもらいたいと考えている。	運営推進会議に、地域住民等、地域の多様な出席者を得ることができるような働きかけに期待したい。また、議事録に会議でのやり取り等の記載等を充実し、職員間で共有することで、サービスの質の向上に活かされたい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町職員は、運営推進会議に参加してくれているなど良い関係を保っている。又、介護保険の手続き時などに出向き交流を図っている。	職員は、町担当窓口に出向き、事業所の報告や福祉制度の相談等を行うなど、顔なじみの関係づくりを行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設マニュアルを活用してミーティングを定期的に行い、身体拘束の具体的な内容についての周知徹底をはかるとともに可能な限り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所では、身体拘束等について問題が生じた時には、そのつど、話し合いの機会をもつようになっている。身体拘束廃止委員会では、身体拘束の内容や弊害について確認している。職員間で利用者の状況を共有し、適切な声掛けをすることで、自由な暮らしを支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する研修会を実施して職員の意識を高めている。又、朝礼などでも事例を出し虐待防止の指導をしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人の方の該当がないが、今後研修会などの機会があれば積極的に参加して理解を深めたい。又、職員にも周知していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約内容を理解して頂けるよう時間を掛けて説明している。少しでも不安な事は質問してもらえるように、一つ一つ確認し納得して頂きながら契約を締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、家族便りを発送して施設での生活内容などの理解を深めてもらっている。又、家族から、のご意見、要望があれば出来る限り誠意を持ち対応している。	事業所では、日ごろから利用者や家族が意見や要望を伝えやすい雰囲気作りに努めている。家族には、電話や事業所便りで、利用者一人ひとりの生活状況を伝え、意見を引き出している。出された意見や要望は、職員間で話しあい、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝、夕にミーティングを行い。意見を聞けるように配慮しています。又、必要であれば、経営者に向けて事案を提案している。	管理者は、日ごろの支援やミーティングのなかで職員の意見や提案をきいている。職員の得意分野を活かし、自主性を引き出すことができるよう工夫している。代表者も定期的に来訪し、職員と話す機会をもっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、職員の就業の環境などに関して必要と判断すれば、法人本部に提案を行っている。資格取得等の協力も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内、外の研修に参加できる様機会を設けている。法人の内部研修特に力をいれている。施設の行事等も責任を持ち取り組めるような環境を整備している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人同系列のグループホーム、ショートステイへなどと交流を図る機会を設けている。管理者も他の施設へ出向き交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前において、本人にお会いして心身の状況を把握しながら、精神面でのニーズを理解する。その後、本人の生活歴など日常的な雑談などにより、深い人間関係を構築して安心して利用できるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族との話し合いの時間を設けて、現在の不安感、負担などを聞きながら雑談も交えて良き相談者としての人間関係を作り、家族が安心して入居に向けて考えられるように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に、本人も含めた話し合いによりその時に必要なサービスを決定している。又、その都度変更もできるように配慮している。入所後当面は、家族と密に連絡を取り意見交換し日々のケアに生かしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の次の住居として、安心、安全を念頭に、利用者と職員が共に協力して何かを作成したり、行動する場面もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細なことでことでも、コミュニケーションを頻会に取るようにして家族との信頼関係を築いている。家族と共に悩み、喜べる関係を目指している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の神社への初詣、利用者の思い出の菊人形、近隣の食堂での食事、懐かしい風景をドライブしたりして、地域で生きている実感を得てもらっている。	事業所は、近隣住民の来訪を快く受け入れている。利用者の希望に応じて、行きつけの美容院や商店に出かけることを支援するなど、馴染みの人や場との関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係は良いが、日々の生活で意見の食い違いはある。そのようなトラブルになるケース時は、職員が配慮して仲裁に入り悪化を防いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても気軽に施設に出向いてもらえる雰囲気作りを行っている。退所した家族からの年賀の挨拶文も頂いている。地域の良き相談所としての機能を持った施設を目指している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者へのケア提供のプロセスで何を必要としているのか。何が不快なのかを把握するよう努めている。又、家族からの情報も必要な場合は聞き取りを行う。その内容を参考にして日常のケアに生かしている。	職員は、日ごろの利用者との何気ない会話や表情からヒントを見つけたり、家族から情報を得たりして、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。また、職員の傾聴力を高めることができるよう、ゆとりある支援に取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常で使用していた家具など馴染みのあるものを持参してもらったり、本人の価値観、宗教観、趣味などを否定せず入所後も継続できる様に援助している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントの時点でも評価しているが、入所後も日常生活を観察して身体の現状を把握している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの実施状況を適時にチェックして今後の課題を分析する。又、その課題に向けて介護計画を策定していくことを念頭に置きケアプランを作成している。	事業所では、本人や家族の思い、医師や関係者の意見を反映した介護計画を作成している。利用者にとっても安心・安全かつ現状を維持することができるよう取り組んでいる。定期的なモニタリングのほか、利用者の心身状況の変化に応じて随時見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体経過、精神面での変化、夜間の状態などを日々記録している。この記録から介護計画に反映させたり状態の変化を医師、家族に情報提供したりしている。又、モニタリングにも活用している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	専門医の受診の援助。外出、個人の買い物等の援助を行っている。その時に発生した利用者からのニーズでも対応出来る事はその都度対応している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域、地元の防災拠点、消防署、行政、病院などからの支援、協力を頂いている。特に地域のボランティア、学生など交流があり施設自体の活性化に貢献してくれている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当施設の担当医師にこだわらず、利用者が希望した場合は、他の専門医師の診察も可能である。又、受診できるように支援も行っている。かかりつけ医師も紹介状などを提供してくれており協力的である。	事業所では、利用者や家族の同意を得て、協力医療機関をかかりつけ医としている。専門医の受診も家族と協力し、支援している。歯科の往診もある。緊急時の対応マニュアルも整備し、適切な医療を受けることができるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週、看護師が医師と訪問してくれている。又、その他の急変時は、看護師が来所してくれる。法人の他の施設の看護師も協力してくれており、適切に看護が受けられる状態である。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	速やかに情報を医療機関に伝えるように配慮している。入院中も協力出来る事があれば行っているし。家族や医師とも連絡相談を密に行っている。退院時などはお迎えに行くなどで家族の負担も軽減している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期に向けての方針を話し合っている。その後も必要に応じて家族と話し合っている。当施設で出来る事、出来ない事、を明確に説明し、誤解のないように注意している。	事業所では、契約時に本人や家族等に重度化や終末期における事業所の方針について説明し、同意を得ている。利用者の心身状況の変化に応じて、医師を含めた関係者で話しあい、方針の共有化を図っている。本人や家族の意向を確認しながら、事業所のできる限りの支援に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新人のスタッフ、移動のスタッフが現在居るので、全員が対応できるスキルを持つことは現段階では難しい。今後、板野消防署との連携、協力を得て救急救命処置訓練を定期的実施していく予定である。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を隣のケアハウスと共同で定期的実施している。夜間などで人手が少ない場合には他の施設のスタッフからの協力体制を得ることができる。	年2回、同一法人の運営する併設の他サービス事業所と合同で避難訓練を実施している。火災を想定し、事業所単独での避難訓練も実施している。利用者とともに避難場所へ出かけ、避難経路の確認をするなど、災害時に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の個人の人格に合わせたコミュニケーションを行う様に配慮している。どのような生き方でもその人生を肯定するように配慮している。羞恥心に配慮したケアを実施している。	職員は、利用者一人ひとりの背景を理解し、人格を尊重した支援に努めている。日常のなかで、自己決定できる場面を設けている。さりげない声掛けや居室のドアの開閉に配慮して、プライバシーを損ねない支援に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選ぶことができる場合においては、意志を尊重している。自己の表現について、その行為に危険がある場合以外は、行動を妨げるようなことはしていない。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を強制することではなく、利用者のその日の気持ちを尊重しながらケアを行っている。施設で対応出来ることは、当日の日程等の調整も行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧したり、衣服のおしゃれができるように配慮している。好みを褒めてあげることも大切と考えている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、本人の能力に合わせた提供内容になっている。刻み食、トロミ食等にも対応している。出来る方には片付けの協力を得ている。	事業所では、菜園で栽培した野菜や近隣の方からの差し入れなどを取り入れて、調理している。季節のメニューを取り入れたり、誕生日にケーキを作ったりして、食事が楽しみになるよう工夫している。食前には、口腔体操を行い、一人ひとりに合わせた食事形態で、安全に楽しく食事ができるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分。食事摂取量に関するチェック、把握は毎日行っているし、変化があれば医師に相談もしている。嗜好にも配慮している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎回、食後に全員口腔ケアを行い。清潔を保持している。一人、一人の能力に合わせた介助内容となっている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄できる能力に合わせて対応している。パンツ、ポータブル、トイレなど出来る限り自立出来る様に介助をしている。	職員は、排泄チェック表を用いて、利用者の排泄パターンを把握している。利用者一人ひとりに合わせて、排泄が心の負担にならないよう支援している。さりげない声掛けや誘導で排泄の自立にむけて支援し、おむつを外すことができるようになった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のパターンを把握して、適時に薬も使用している。水分も調整しながら自然な排泄も出来るように援助している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に入浴日時は決まっている。希望すれば時間調整、日程調整も可能である。	事業所では、週に2～3回の入浴ができるよう支援している。利用者の希望に応じて、時間帯や回数、同性介助等に対応している。ゆず湯や菖蒲湯等で、入浴を楽しむことができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活空間を利用者の好みに合った配置などにする配慮を行っている。空調の温度、電気設備、照明なども施設で出来ることは、本人のニーズに合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフが服薬を管理しており、確実に飲用できるようにしている。状態の変化については、医師、看護師に常時電話連絡が出来る体制となっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味、嗜好、などが表現出来る様に援助している。趣味に没頭出来ている人は少数である。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	レクリエーションでは、散歩、外出レクに出かけている。普段行けない様な場所は、ニーズがあれば検討している。	事業所では、日ごろから近隣の公園等に散歩に出かけている。家族の協力を得て、自宅に帰ったり、外食や法事、墓参りに出かけたりしている。地域のイベントへの参加希望等があれば、個別に支援する体制も整えている。菊人形や季節の花見など、季節に応じた外出も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じて自分で管理することも可能である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望すれば自由である。電話、手紙は機会を設けて実践対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓は広く施設は明るい。日当たりも良く天気の良い日は徳島市内まで見渡せる。施設室内は、木の作りで広く動きやすい設計となっている。利用者の動きを妨げる物もない。空調も安定している。	共用空間は、明るく、清潔感がある。ホールの大きな窓からは、近くの山々や柿畑等を眺めることができ、季節を感じるができる。利用者とともに、壁面に手作りのカレンダーや写真、ぬり絵等の飾りつけを行い、温かみのある空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	イスであったりソファであったり、自ら選べるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた道具、アクセサリなどを持参している方もいる。家族の協力も得て配置している。	居室には、家族と相談し、利用者の使い慣れた家具等を持ち込んでもらっている。職員と一緒に掃除を行い、清潔に保っている。利用者が居心地良く過ごすことができる居室づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面に考慮した生活空間を作っている。手すり等も設置して。外へ出る事故も防げるように配慮した設備である。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、朝礼時に唱和することもあり、認識を深めている。何か検討する項目が発生すれば施設の理念に照らし合わせて方向性を検討している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中学生職場体験の受け入れ、近隣への外出レクリエーション、ボランティアグループが来所して頂いての、剣舞、阿波踊り、手品、フラダンスなどで利用者の方と交流して頂き、地域との交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の相談所としての機能を果たすため、家族、近隣、行政に啓発を行っている。これからも広く理解を深めてもらうよう努力していく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を実施している。行政も協力的であり参加して頂いている。第三者からの率直な意見を聞きくことには施設運営に良い刺激となっている。意見をケアサービス改善に取り入れることもある。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町職員は、運営推進会議に参加してくれているなど良い関係を保っている。又、介護保険の手続き時などに出向き交流を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設マニュアルを活用してミーティングを定期的に行い、身体拘束の具体時な内容についての周知徹底をはかるとともに可能な限り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する研修会を実施して職員の意識を高めている。又、朝礼などでも事例を出し虐待防止の指導をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人の方の該当がないが、今後研修会などの機会があれば積極的に参加して理解を深めたい。又、職員にも周知していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約内容を理解して頂けるよう時間を掛けて説明している。少しでも不安な事は質問してもらえるように、一つ一つ確認し納得して頂きながら契約を締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、家族便りを発送して施設での生活内容などの理解を深めてもらっている。又、家族から、のご意見、要望があれば出来る限り誠意を持ち対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝、夕にミーティングを行い。意見を聞けるように配慮しています。又、必要であれば、経営者に向けて事案を提案している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、職員の就業の環境などに関して必要と判断すれば、法人本部に提案を行っている。資格取得等の協力も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内、外の研修に参加できる様機会を設けている。法人の内部研修特に力をいれている。施設の行事等も責任を持ち取り組めるような環境を整備している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人同系列のグループホーム、ショートステイなどと交流を図る機会を設けている。管理者も他の施設へ出向き交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前において、本人にお会いして心身の状況を把握しながら、精神面でのニーズを理解する。その後、本人の生活歴など日常的な雑談などにより、深い人間関係を構築して安心して利用できるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族との話し合いの時間を設けて、現在の不安感、負担などを聞きながら雑談も交えて良き相談者としての人間関係を作り、家族が安心して入居に向けて考えられるように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に、本人も含めた話し合いによりその時に必要なサービスを決定している。又、その都度変更もできるように配慮している。入所後当面は、家族と密に連絡を取り意見交換し日々のケアに生かしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の終の住処として、安心、安全を念頭に、利用者と職員が共に協力して何かを作成したり、行動する場面もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細なことでも、コミュニケーションを頻会に取るようにして家族との信頼関係を築いている。家族と共に悩み、喜べる関係を目指している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の神社への初詣、利用者の思い出の菊人形、近隣の食堂での食事、懐かしい風景をドライブしたりして、地域で生きている実感を得てもらっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係は良いが、日々の生活で意見の食い違いはある。そのようなトラブルになるケース時は、職員が配慮して仲裁に入り悪化を防いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても気軽に施設に出向いてもらえる雰囲気作りを行っている。退所した家族からの年賀の挨拶文も頂いている。地域の良き相談所としての機能を持った施設を目指している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者へのケア提供のプロセスで何を必要としているのか。何が不快なのかを把握するよう努めている。又、家族からの情報も必要な場合は聞き取りを行う。その内容を参考にして日常のケアに生かしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常で使用していた家具など馴染みのあるものを持参してもらったり、本人の価値観、宗教観、趣味などを否定せず入所後も継続できる様に援助している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントの時点でも評価しているが、入所後も日常生活を観察して身体の現状を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの実施状況を適時にチェックして今後の課題を分析する。又、その課題に向けて介護計画を策定していくことを念頭に置きケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体経過、精神面での変化、夜間の状態などを日々記録している。この記録から介護計画に反映させたり状態の変化を医師、家族に情報提供したりしている。又、モニタリングにも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	専門医の受診の援助。外出、個人の買い物等の援助を行っている。その時に発生した利用者からのニーズでも対応出来る事はその都度対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域、地元の防災拠点、消防署、行政、病院などからの支援、協力を頂いている。特に地域のボランティア、学生など交流があり施設自体の活性化に貢献してくれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当施設の担当医師にこだわらず、利用者が希望した場合は、他の専門医師の診察も可能である。又、受診できるように支援も行っている。かかりつけ医師も紹介状などを提供してくれており協力的である。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週、看護師が医師と訪問してくれている。又、その他の急変時は、看護師が来所してくれる。法人の他の施設の看護師も協力してくれており、適切に看護が受けられる状態である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	速やかに情報を医療機関に伝えるように配慮している。入院中も協力出来る事があれば行っているし。家族や医師とも連絡相談を密に行っている。退院時などはお迎えに行くなどで家族の負担も軽減している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期に向けての方針を話し合っている。その後も必要に応じて家族と話し合っている。当施設で出来る事、出来ない事、を明確に説明し、誤解のないように注意している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新人のスタッフ、移動のスタッフが現在居るので、全員が対応できるスキルを持つことは現段階では難しい。今後、板野消防署との連携、協力を得て救急救命処置訓練を定期的実施していく予定である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を隣のケアハウスと共同で定期的実施している。夜間などで人手が少ない場合には他の施設のスタッフからの協力体制を得ることができる。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の個人の人格に合わせたコミュニケーションを行う様に配慮している。どのような生き方でもその人生を肯定するように配慮している。羞恥心に配慮したケアを実施している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選ぶことができる場合においては、意志を尊重している。自己の表現について、その行為に危険がある場合以外は、行動を妨げるようなことはしていない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を強制することではなく、利用者のその日の気持ちを尊重しながらケアを行っている。施設で対応出来ることは、当日の日程等の調整も行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧したり、衣服のおしゃれができるように配慮している。好みを褒めてあげることも大切と考えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、本人の能力に合わせた提供内容になっている。刻み食、トロミ食等にも対応している。出来る方には片付けの協力を得ている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分。食事摂取量に関してのチェック、把握は毎日行っているし、変化があれば医師に相談もしている。嗜好にも配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎回、食後に全員口腔ケアを行い。清潔を保持している。一人、一人の能力に合わせた介助内容となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄できる能力に合わせて対応している。パンツ、ポータブル、トイレなど出来る限りの自立出来る様に介助をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のパターンを把握して、適時に薬も使用している。水分も調整しながら自然な排泄も出来るように援助している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に入浴日時は決まっている。希望すれば時間調整、日程調整も可能である。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活空間を利用者の好みに合った配置などにする配慮を行っている。空調の温度、電気設備、照明なども施設で出来ることは、本人のニーズに合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフが服薬を管理しており、確実に飲用できるようにしている。状態の変化については、医師、看護師に常時電話連絡が出来る体制となっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味、嗜好、などが表現出来る様に援助している。趣味に没頭出来ている人は少数である。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	レクリエーションでは、散歩、外出レクに出かけている。普段行けない様な場所は、ニーズがあれば検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は盗難等のリスクを考慮し、原則的に行っていないが、本人の要望により買い物に同行するなどの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月送付する家族便りにご本人が書いた手紙等も同封するようにしている。また、電話もその都度こちらから掛けられるよう支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓は広く施設は明るい。日当たりも良く天気の良い日は徳島市内まで見渡せる。施設室内は、木の作りで広く動きやすい設計となっている。利用者の動きを妨げる物もない。空調も安定している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	イスであったりソファであったり、自ら選べることができるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた道具、アクセサリなどを持参している方もいる。家族の協力も得て配置している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面に考慮した生活空間を作っている。手すり等も設置して。外へ出る事故も防げるように配慮した設備である。		